

「江戸東京」第 202 回 (PDF 版) : 『先徳遺芳』 (木下文書) 全四卷 (巻物) : 国立国会図書館に寄贈される

『先徳遺芳』 (木下文書) 全四卷 (巻物) : 国立国会図書館に寄贈される

♪木下實氏 (東京大学名誉教授) (木下^{ひろむ} 瀨の曾孫) より 『先徳遺芳』 (木下文書) と題した冊子を贈っていただきました。(図 1)



図 1. 『先徳遺芳』表紙 (木下實編・平成 23 年[2011]刊 私家版)

♪この冊子は、「『先徳遺芳』 (木下文書)」の巻物が、国立国会図書館に寄贈されることになったのを機会に木下實氏によって編集されたものです。

(前書きに代えて)

『先徳遺芳』は、曾祖父木下^{ひろむ} 瀨が残したもので、杉田玄白とその子孫から木下家の代々に宛てられた書翰などを集めた四巻の巻物である。三上参次先生 (元東京帝国大学文科大学教授兼史料編纂) によって「木下文書」と命名された。ここでは巻物を開いて個々の文書に分けて収録した。

平成廿三年七月
木下 實

「江戸東京」第 202 回 (PDF 版) : 『先徳遺芳』(木下文書) 全四巻 (巻物) : 国立国会図書館に寄贈される

♪ 冊子は第一部, 第二部, 第三部に分けて編集されています。原文と解説文とから構成されているのですが, 木下實氏による補足説明もあり, 巻末には, 「木下^{ひろむ}・正中・東作の略年譜」も作成されています。『先徳遺芳』(木下文書) (巻物) の全容を知る上で大変, 貴重な冊子となっています。

第一部 : 原文[奉先記事][源淵寶墨][立卿・成卿先生遺墨][名士墨蹟][貴重書翰]

第二部 : 原文と解説文

第三部 : 収録資料目録 (主に木下恭二保存の資料と文献から集めた資料)

付録一 木下家・杉田家系譜

付録二 木下家関係参考書

付録三 木下^{ひろむ} 翁懷舊談 (京都医事衛生誌, 明治四十年) ([文献 1 参照](#), [文献 2 参照](#))¹⁾²⁾

補足資料集

木下^{ひろむ}・正中・東作の略年譜



♪ 『先徳遺芳』(木下文書) の現物は, 昭和 55 年(1980)に木下正一(木下^{せいいつ} 正中^{せいちゅう} の長男・木下實氏の伯父) から [講談社](#) の野間科学医学研究資料館 (当時の責任者は緒方富雄, 理事は川喜田^{よしお}愛郎[木下正中の娘婿・元千葉大学学長]) (「江戸東京」[第 173 回](#) [第 175 回](#)) に寄贈されました³⁾。その後, 野間科学医学研究資料館が平成 15 年(2003)に閉館されてから, その所在が確認できないでいました。

♪ ……行方について木下實氏による適切で緻密な探索の結果, 巻物は, 講談社内には, 別置して大切に保管されていたことが確認されました。京都に行っていた巻物が東京にあったのです。(「江戸東京」[第 175 回](#)) 幸い保存状態が良く, 痛みもなかったそうです。巻物が, 眼前に現れたときの感激は如何ばかりであったでしょう。巻物と対面されたとお知らせをいただいたときは,

「江戸東京」第202回（PDF版）：『先徳遺芳』（木下文書）全四巻（巻物）：国立国会図書館に寄贈される

古文書の香りが，こちらまで伝わってくるようでした。



図2. 外函と内函の蓋の表裏（富岡鐵齋画伯の筆）
[二重の桐函に巻物が収められている]（写真：木下實氏提供）



図3. 『先徳遺芳』（木下文書）全四巻[写真：木下實氏提供]
（内函のなかに四巻の巻物が収められている）

「江戸東京」第 202 回 (PDF 版) : (『先徳遺芳』(木下文書)) 全四巻 (巻物) : 国立国会図書館に寄贈される

第一軸 (題簽 「奉先記事」)	[自序 (明治卅七年八月 木下 ^{ひろむ} 瀨 謹識, 鐵齋富岡百鍊代書)]
第二軸 (題簽 「源淵寶墨」)	[男爵石黒忠憲書簡翰 (木下 ^{ひろむ} 瀨 宛 明治四十年五月二日) : 三上参次序 (明治四十年十一月念八日) ・杉田玄白五世孫 武 ・杉田玄白翼書翰 (木下宗伯宛) など]
第三軸 (題簽 「立卿・成卿先生遺墨」)	[杉田立卿・杉田成卿書翰]
第四軸 (題簽 「名士墨蹟」)	[川本幸民の書翰など]

♪ 『先徳遺芳』(木下文書) は、木下實氏からの依頼で講談社から木下家に返却 (平成 23 年 [2011] 8 月 29 日) されることになりました。その後、木下家での話し合いの結果、国立国会図書館に寄贈 (平成 23 年 [2011] 9 月 16 日) されることになったとのこと、川喜田愛郎先生も、さぞかし安心されたことと思います。

♪ 講談社からの返却時に、現物からの写真撮影が行われています。その結果、『先徳遺芳』(木下文書) の現物 (巻物) は国立国会図書館に、影写本が東京大学史料編纂所 (「江戸東京」第 174 回) に、そしてデジタルデータが木下實氏の手元に、保管されることとなります。文化財的な史料の永久保存、安全保管としては、万全の方策がとられたこととなります。

♪ 巻物は、二重の桐函 (図 2 ・ 図 3) に収められているのですが、富岡鐵齋の筆による書 (題字・函裏の書) (図 4) も鮮明に読み取れます。木下正一によると、もともと、内函だけがあったものを、富岡画伯がその貴重さを思い、表函を作らせ、友人である木下^{ひろむ} 瀨 のために、筆をとったとのこと³⁾。(文献 3 参照)

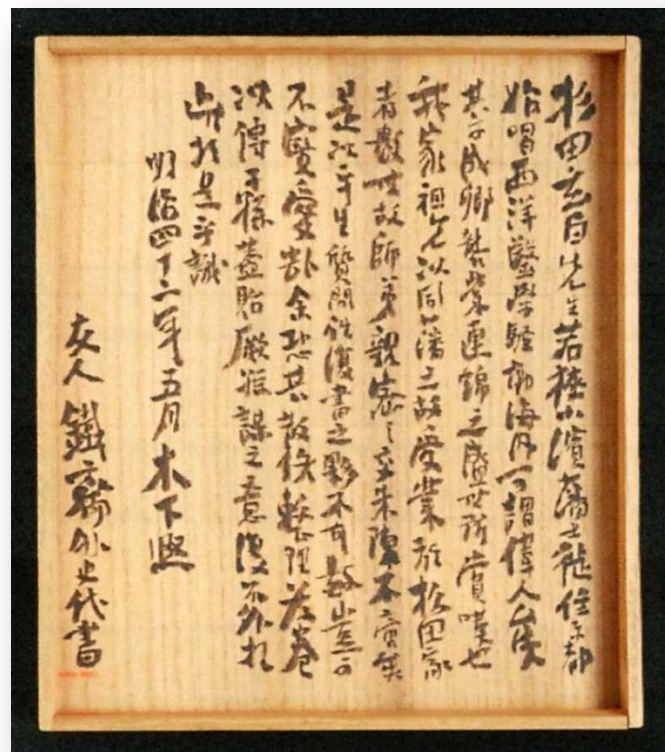


図 4. 内函の裏の書 (富岡鐵齋画伯書) (写真 : 木下實氏提供)

杉田玄白先生は、若狭小濱の藩、従って京都に住み、始めて西洋医学を唱えて海内を騒動す。偉人と言うべし。その子成卿業を襲え、連綿の盛、世の賞嘆するところなり。わが家の祖先、同藩の故を以て業を杉田家に受くる數世、故に子弟親密の交、朱陳^{ただ}も^{あに}啻ならず。これを以て平生質問往復書の夥き數うべからず、豈實愛せざるべけんや。余その散佚を恐れ、整理して巻となし、以て子孫に伝う。蓋し胎厥孫謀^{いけつそんぼう}の意、またこれに外ならず、是に於てか識す

明治四十二年五月 木下^{ひろむ} 濤

友人鐵齋外史代書

注) 胎厥孫謀(いけつそんぼう) : 父祖が子孫に遺すはかりごと

「江戸東京」第 202 回 (PDF 版) : (『先徳遺芳』(木下文書)) 全四卷 (巻物) : 国立国会図書館に寄贈される

『先徳遺芳』(木下文書) 全四卷 (巻物) 国立国会図書館寄贈までの流れ

明治 37 年(1904)8 月 : 木下^{ひろむ} 瀨 「自序」(富岡鐵齋代書)

明治 39 年 9 月 : 三上^{さんじ} 参次により影写本「木下文書」が作成される

(影写本は[東京大学史料編纂所](#)が所蔵)

明治 40 年(1907)11 月 28 日 : 三上参次「序文」

明治 41 年(1908)春 : 杉田武「書翰」

明治 42 年(1909)5 月 : 友人の富岡鐵齋 表函・内函の表題・裏書の筆をとる

昭和 31 年(1956)3 月 4 日 : 「木下文書」の一部が医家先哲追薦会⁴⁾⁵⁾ (場所 : 日本医師会館大講堂・大食堂) で展覧・陳列される

[安西安周の求めによって木下^{せいいつ} 正一が提供する]⁶⁾ ([文献 6 参照](#))

昭和 55 年(1980) : 木下正一から野間科学医学研究資料館 (講談社) へ寄贈される ([文献 3 参照](#))

平成 15 年(2003) : 野間科学医学研究資料館が閉館となる

平成 22 年(2010)12 月 : 講談社 (野間佐和子社長・当時) で発見される

平成 23 年(2011)8 月 29 日 : 木下實氏の依頼により木下家に返却されることとなる (このとき講談社で現物からの写真撮影が行われる)

平成 23 年(2011)9 月 16 日 : 国立国会図書館に寄贈される。その後、国立国会図書館の [OPAC](#) (「木下文書」で検索) に登録, [古典籍資料室](#) に保管される。

♪ **第二軸** (題簽「**源淵寶墨**」) に, 杉田^{たけし} 武 (1852-1920) (杉田玄端の長男, 杉田本家 7 代) (杉田玄白五世孫)⁷⁾⁸⁾⁹⁾ の書翰が収められています。(図 5)

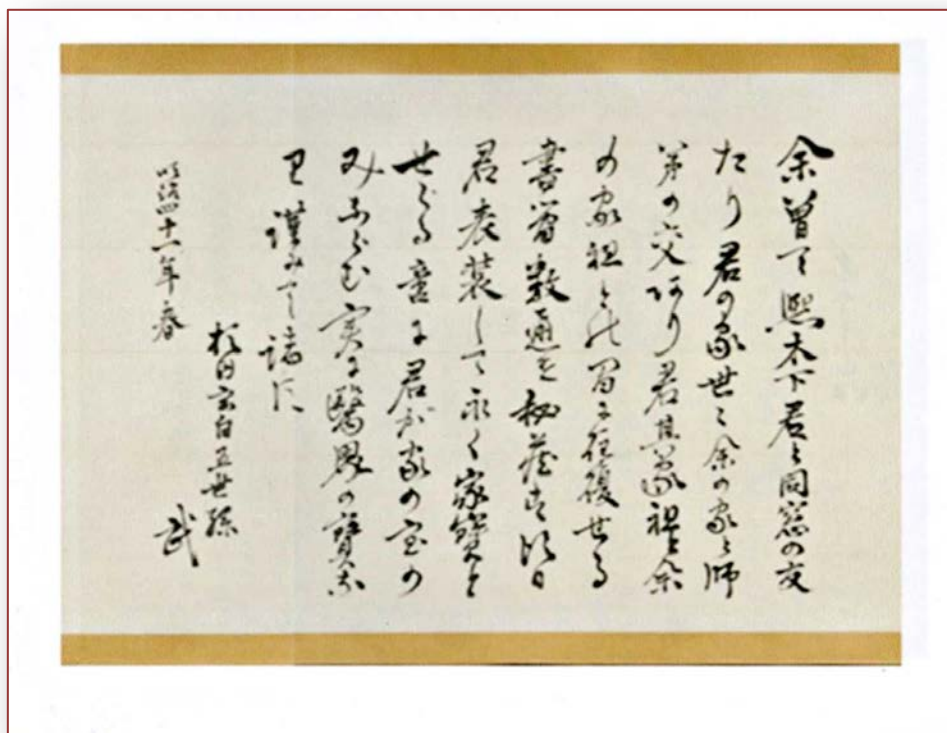


図5. 杉田武（杉田玄白五世孫）からの書翰（写真：木下實氏提供）

余曾て^{ひろむ}瀬木下君と同窓の友なり、君の家世々余の家と師弟の交あり、君其家祖と余の家祖との間に往復せる書簡数通を秘蔵す、頃日君表装して永く家寶とせらる。^{ただ}昔に君の家の宝のみならむ、實に醫界の寶なり、謹みて誌す。

杉田玄白五世孫
武

明治四十一年春

♪木下^{ひろむ}瀬は、[横濱時代](#)¹⁰の明治4年[1871]から明治6年[1873]まで丸屋薬局（丸善の前身）に杉田武と同宿して、早矢仕有的の塾（静々舎診察所）で勉学を共にしていました。（「江戸東京」[第178回](#)）このころから、木下^{ひろむ}瀬は、木下家に

「江戸東京」第 202 回 (PDF 版) : (『先徳遺芳』(木下文書)) 全四巻 (巻物) : 国立国会図書館に寄贈される

伝わる杉田玄白や川本幸民などからの貴重な文書類を、後世に伝える方策を考えていたように思えます。立派な表装と二重の桐函によって、貴重な文書が、確かに、後世に伝えられました。

♪さらに「『先徳遺芳』(木下文書)」は、国立国会図書館に寄贈されたことによって、杉田武のいう「木下家の家寶」が「醫界の寶」となったともいえるでしょう。

♪杉田家にとっても寶といえる文書類が、国立国会図書館に収まったことを、木下^{ひろむ}瀬と杉田武は、共に喜びあっているのではないのでしょうか。

(平成 24 年 9 月 3 日 堀江 幸司 記す)

参考文献

- 1) 「[木下^{ひろむ}瀬 翁懷舊談](#)」:『京都醫事衛生誌』第 163 号 pp. 28-30. (明治 40 年 10 月発行)
- 2) 「[木下^{ひろむ}瀬 翁懷舊談 \[承前\]](#)」:『京都醫事衛生誌』第 164 号 pp. 32-35. (明治 40 年 11 月発行)
- 3) 「[蘭医杉田家・木下家代々遺墨, いわゆる「木下文書」当資料館に寄贈さる](#)」『科学医学資料研究』第 75 号 : pp. 1-3. (昭和 55 年 7 月 15 日発行)
- 4) 「[醫家先哲祭](#)」『日本医事新報』 No. 1661. p. 60. (昭和 31 年 2 月 25 日発行)
- 5) 「[醫家先哲祭盛況—先哲を偲び決意新にす 今後, 日医の年中行事に一](#)」『日本医事新報』 No. 1663. p. 58. (昭和 31 年 3 月 10 日発行)
- 6) 安西安周著:「[蘭医杉田家代々の遺墨について—所謂「木下文書」の譯註](#)」. 『日本医師会雑誌』 35 (11) : 631-637 (昭和 31 年 6 月 1 日)

「江戸東京」第 202 回 (PDF 版) : (『先徳遺芳』(木下文書)) 全四卷 (巻物) : 国立国会図書館に寄贈される

- 7) 「[杉田家と木下家](#)」: 『京都醫事衛生誌』第 159 号 pp. 39-41. (明治 40 年 6 月発行)
- 8) 「[杉田家と木下家](#)」: 『京都醫事衛生誌』第 160 号 pp. 33-35. (明治 40 年 6 月発行)
- 9) 「[杉田家と木下家](#)」: 『京都醫事衛生誌』第 161 号 pp. 30-33. (明治 40 年 8 月発行)

- 10) 木下實著 : 「[曾祖父 木下 澗 一横浜での生活一](#)」 (私家版)